九州支部

第42回九州支部総会が5月31日に熊本駅前の「ザ・フォレストテラス熊本」の「千山万水」にて、前日5月30日には交流会が開催されました。

青山学院大学コミュニティ人間科学部教授河見誠先生、同准教授後藤千織先生、安西彰子同窓会会長をお迎えし、交流会30名総会39名の参加で笑顔溢れる楽しい会となりました。台風が近づくなか心配した天候でしたが、両日とも好天に恵まれ7月のような暑さでした。



今年は熊本地震発生から10年目となり、交流会はガイド付きで復興のシンボル熊本城を見学しました。その後「小泉八雲熊本旧居」へ行き館長に日本を愛した八雲の興味深いお話を伺いました。夕食は姫になった気分で江戸時代の肥後の献立を再現した復刻料理本丸御膳に舌鼓を打ち喉を潤しました。

総会は河見先生による礼拝、聖書「コリント信徒への手紙第一」拝読、全員による讃美歌斉唱と厳かに始まり、安西会長より同窓会の現状とこれからについてのお話がありました。後藤先生の講演「性差(性別)理解の歴史～男女の身体へのまなざし～」では男女の性分化はとても複雑で外見だけでは単純に性自認が予測できないなど、ジェンダーアイデンティティの多様性に対する理解が深まりました。

懇親会は「瑞鷹(株)」蔵元から熊本県伝統酒・肥後の赤酒と熊本の日本酒の歴史のお話を聞いた後、日本酒アワード金賞受賞の県産酒で乾杯、和やかに会食が始まりました。どれも美味しいと参加の方からお褒めの言葉をいただいたお料理をいただきながら、青短の懐かしい思い出話に花を咲かせ、素敵な時間を過ごすことができました。各県部会から会員紹介と活動報告が行われ、同窓会活動の存続と次世代への継承が望まれました。

来年は佐賀で開催されます。全員で記念撮影した後、来年も会いましょうと名残を惜しみつつ閉会となりました。



また両日は河見先生、後藤先生による聞き取り調査が昭和50年代卒3名の方に実施されました。短大の70年にわたる足跡がわかる素晴らしい記録になることを楽しみにしております。

55J　荒尾　晃代(奥村)

この報告は7月中旬にされたものです

台湾支部

一杯のタピオカティーには、台湾の歴史のエッセンスが凝縮されています。

台湾の茶文化は実に独特です。大航海時代にイギリス東インド会社が持ち込んだ紅茶から始まり、現在に至るまで進化を遂げてきました。植民地時代を背景に持つアッサムティーや、台湾独自のまろやかなルビー紅茶などがあります。高山烏龍茶をじっくりと時間をかけて丁寧に淹れる洗練された茶道もあれば、街角で手軽に買えるタピオカティーもあります。タピオカティー黎明期からタピオカティーを飲み続けてきた私たちは、この歴史を誰よりも深く理解しています。特に、密閉包装機の登場により、テイクアウトタピオカティー業界は飛躍的な発展を遂げました。

それ以来、飲み物は次のような役割を果たすようになりました。

・持ち歩く（移動中に飲むのはマナー違反ですが、本当に楽しいですよ）
・一日中デスクに置いておく。
・会議の緊張を和らげる（緊張したら一口飲んで）
・誰かを家に招くときにバッグを持っていく（見栄えがいいですよ）

「一緒に飲み物を注文する」ことは、台湾ならではの社交儀式にまでなっています。考えてみてください。たった一言「飲み物を注文しませんか?」でオフィス全体を動員できる国が、世界にいくつあるでしょうか?

『茶葉のタイムトラベルアドベンチャー』は、この一連の流れを見事にまとめています。

歴史から現代へ、国際から台湾へ。「ローカルであればあるほど、国際的になる」これは台湾の茶文化に最も顕著に表れています。

そこに存在する数々の繊細な繋がりは、実に興味深いものです。

お子さまと飲み物について、パッケージからタピオカティー、そして台湾の地政学的重要性を変えた決定的な瞬間である大航海時代まで、様々な話題で会話を始めることができます。

お茶の文化を理解することは、台湾人としての私たち自身を理解する上でも役立ちます。



絵本『茶葉のタイムトラベルアドベンチャー：お茶の黄金時代から世界のタピオカティーまで、世界地図における台湾の重要な位置を理解する！』Parenting & Lifestyle Publishing刊より

平7H　何　恵琴